

まていの里のこども園ニュース & いたて希望の里学園ニュース

農業委員会と農業者(水稲)の意見交換会

生産農家と関係者が一堂に

11月13日、いたて活性化センター「いちばん館」で、飯館村農業委員会主催の『令和5年度農業者との意見交換会』が開催されました。昨年の花卉農家との意見交換会に続く2回目の開催で、今回は水稲生産農家を交えての意見交換となりました。

第1部では、相双農林事務所、JAふくしま未来飯館営農センター、村産業振興課から、補助事業や今般の米穀情勢について情報を共有。令和5年産米の相対取引価格の現状、同米の水稲作付面積と予想収穫量なども報告されました。

第2部では、「資材等高騰が農業経営に及ぼす影響と対応策」などをテーマに杉岡村長を交えて意見交換を行いました。圃場整備後の営農や情報通信網の整備など、様々な視点から課題が挙げられ、杉岡村長との具体的な議論が行われました。



10月31日、まていの里のこども園の園児が、手作りの衣装や小物でバッチリ仮装し、『ハロウィンパレード』で村役場に来てくれました。「トリック・オア・トリート!お菓子をくれないとイタズラしちゃうぞ!」と声を合わせて元気にパレード。イタネちゃんとお会ったり、ハロウィンのダンスを披露したり、お菓子もたくさんいただきました。

ハロウィンパレード



フルオーケストラの音楽鑑賞会



11月2日、山形交響楽団を迎え、いたて希望の里学園で音楽鑑賞会が開かれました。クラシックの名曲やアニメ映画の挿入曲を鑑賞した他、演奏をバックに歌ったり、指揮を体験したり、充実した鑑賞会となりました。大島輝琉さんが「動画で聴く時とは全く違う感動があり、オーケストラに関心がわきました」と感謝を伝えました。

ユナイテッド福島FCサッカー教室



10月31日、前期課程4～6年生を対象に、福島ユナイテッドFCによる特別出前授業が行われました。ボールを使ったゲームやパス・シュート練習などをこなし、4チームに分かれて試合を行いました。児童は終始笑顔で、コーチを務めた選手の皆さんとも距離が縮まり、最後は仲良くハイタッチ。貴重な時間を楽しんでいました。

「あぶくまもち」のおむすび限定販売



11月21日、発売を前にあぶくまもち生産組合の青田豊実組合長(前田/前列中央)らが新聞社でおむすびをお披露目。写真は福島民報社。

11月28日から、飯館村及び中通り地方のセブンイレブン282店舗で、令和5年飯館村産あぶくまもちを使用しおむすび「赤飯おこわ」と「舞茸入り五目おこわ」が販売されています。あぶくまもちは全国で唯一、飯館村で生産されているもち米。初めて商品化された昨年は、約4万個のおむすびが8日間で完売しました。今年も販売エリアを拡大し、昨年の5倍にあたる約20万個を販売します。生産者を始めとする多くの関係者の想いをのせ、あぶくまもちの新たなストーリーが紡がれています。もちもち食感をぜひ味わってください。イタネちゃんのパッケージが目印です。▼

福島大学食農学類 中間報告会



報告会は、福島大学と村役場をオンラインで結んで行われました。

11月10日、福島大学食農学類・飯館村フィールドの学生が、今年度の活動の中間報告を行いました。村からは村山総務課長、三瓶産業振興課長、担当職員らが出席しました。学生らは「飯館村の地域資源を生かした賑わいづくり」をテーマに、村の知名度向上や魅力発信等を目標に掲げ、「イータベイク」と「あぶくまもち」にスポットを当て活動しています。8月に村内で開催したイータベイクのPRイベント「真夏の宝探し」の他、10月の大学祭で「真イフェア」を催しアンケートを行うなど、特産品化に向けたPR活動に取り組んできたことなどを報告しました。

4年生が上下水道施設を見学



11月16日、いたて希望の里学園の4年生が、滝下浄水場と飯樋処理場を見学しました。浄水場では役場の担当職員が、簡易水道の水がどのようにつくられるかを説明。「どこから水が来ていますか」「震災の被害はありましたか」など児童の質問にも答えました。児童は感想を話したり写真を撮ったりしながら熱心に見学していました。

3歳以上児が『七五三参り』



11月15日、まていの里のこども園の3歳以上児が、綿津見神社で『七五三参り』をしました。清々しい青空の下、自分でつくった千歳飴の袋を手に神社を訪れ、宮司の多田仁彦さん(宮内)から七五三の行事の意味や参拝の仕方を教わり、小さな手を合わせ、心を込めてお参りしました。